

【22】日本の低地は日本人が造った！

オランダの国土は内海を締め切って干拓したり埋め立てたりして生み出した土地が広いので、“世界は神が創ったが、オランダはオランダ人が造った。”と云われます。実は、わが国の河川下流域の低平地も、私たちの祖先ばかりか現代人まで含めて、日本人が汗水たらして造り出した土地です。

わが国の低地は、6～7千年前の“縄文海進”をピークに、内陸部へ侵入していた海が徐々に退いていき、その後に周辺の山地からの流入土砂が堆積して陸化が進みました。この状況が数千年も続けば地質的に安定した低平地となったはずでした。

しかし、稲作を重んじた弥生時代以来の日本人は、自然の作用で陸化が進むのを待ち切れず、河川の後背湿地などの湿地、湖沼、入江、干潟など陸化の不十分な土地に働きかけ、排水、干拓、埋立てにより水田化を図りました。水害軽減のため、堤防を築いて河川の氾濫を防いだことは、河川周辺の低地への土砂流入を減少させ、陸化を阻害する結果となりました。

このような営みは、古くは平安時代中期の荘園に端を発し、大部分は室町時代以降のここ500年ほどの、地質学的に云えばホンの一瞬の出来事です。低地の地形・地質の若いことが、軟弱地盤、地盤沈下、液状化、わずかな降雨での浸水など、数々の水にまつわるトラブルの基本的な原因となっているのです。

日本でも河川下流域の低地は、イザナギの命、イザナミの命の“国生み”の結果ではなく、勤勉な日本人が造り出したと誇ってよいのです。